

# 小泉改革 国際公約に



「テフレの問題があるが、改革を延ばすわけにはいかない」。首相は、小手先の経済対策より、不良債権の処理や金融シス

レ宮殿でのロシアを巡る  
国際会議へのデビューと  
構造改革の断行を表す  
な滑り出しとなつた。

G  
7

首相、滑

領はサミットの長老(力ナタ代表団)。二十日開幕した主要国首脳会議(ジエノバ・サミット)

持つシラク大統領といふことは、衆目の一致するところだ。

初顔合わせ心と姿勢。今月せ、会  
郎首相に「元に發態度を変え

# “主役”は仏大統領 防衛、環境で一宮

構相  
洋條  
臨時  
代表  
大量破

大リーグで  
れるスポ  
海外進出の  
岡県にも遙  
寄せていく  
選手の海外進出

目的的じ日本がもとに人間の生存を保つための手段として、科学的資源管理(RMS)の方法を確立する必要性を認めることが、その前提にあつた。

ところが日本が始めた調査捕鯨に対する米国は商業捕鯨の実質的な復活だと非難し、クリントン新政権に統きアッシュ大統領も、先日の日米首脳会談で小泉純一郎首相に注意喚起した。

科学的資源管理の模索についても捕鯨国と反捕鯨国の対立は解けず、今回のIWC総会でも論争が予想される。

日本は調査捕鯨を実施した結果、商業捕鯨停止で鯨の生息数が増えたため、大量の魚が鯨によつて食べられ、サンマなど魚資源への影響が出始めているという結論を得た。

日本の主張についても、科学的根拠の有無で争うべき問題である。

人類と鯨の数千年にわたる「付き合い」は、食物連鎖の頂点にいる人間にとて、自然と闘い自然の恵みを享受することで、自然に深い畏敬（いけい）と感謝の念を持つ重要な契機の一つであったことは確かだ。

動物や植物をとて食べる営みは、自然の中に生きる人間の根源的な様相そのものであって、一時のセンチメンタリズムでは測れないうれしさがある。

食文化の共存を図りつつ、科学的な資源管理で協調するのがIWC加盟国の使命である。今年の総会が、それに一步でも近づいてくれることを期待したい。

「和 W 字」は特許のことを記載する  
「和 W 字」は特許のことを記載する

書、妥協案が必要」

改革本番を迎える。小泉首相がまず、「総裁選では改革を徹底的に訴えた。クレティエン首相も同じと聞いている」

This is a detailed historical map of Lake Biwa and its surroundings, likely from the Edo period. The map is oriented vertically and shows the lake as a large blue area with various islands and peninsulas. Numerous small settlements and landmarks are marked with labels in Japanese characters. The surrounding land is depicted with green and brown tones, representing hills and mountains. The entire map is framed by a decorative border.

細に描かれた地図。上が北  
(気仙沼市立公民館蔵)